

平成 28 年 3 月 7 日

立川市議会

議長 須 崎 八 朗 殿

立川市議会 総務設委員会

委員長 浅川 修一

## 行政視察報告

このことについて、下記のとおり報告いたします。

### 記

#### 1 視察月日

平成 27 年 10 月 22 日（木）から平成 27 年 10 月 23 日（金）

の 1 泊 2 日

#### 2 視察地及び視察事項

視察都市名	視 察 事 項
福島県郡山市	シティプロモーション推進事業について
福島県会津若松市	オープンデータの取り組みについて

#### 3 視察の概要及び所感

別紙のとおり

## 行政視察報告

視察期日 平成 27 年 10 月 22 日～23 日

視察参加者 総務委員会

委員長 浅川修一

副委員長 江口元気

委員 中山ひと美 伊藤幸秀 大沢純一 伊藤大輔 大沢豊

訪問先 福島県郡山市、福島県会津若松市

### ● 1 日目 福島県郡山市

#### シティプロモーション推進事業について

1 日時 平成 27 年 10 月 22 日（木）

2 場所 郡山市役所

3 内容

郡山市は福島県の中通り地方にある人口 33 万人の町である。高速交通の要衝であり、東京から新幹線で約 80 分というアクセスに優れた立地にある。

郡山市では「東北のウィーン、楽都郡山」というキャッチフレーズでシティプロモーションを行っている。人口減少社会の中で、都市間競争が激化し、より魅力的な都市に、人、もの、情報の資源が集中する傾向にある。こうした中、郡山市は自身の現状を客観的に分析、全国的に見れば、知名度が低い状況を危機に感じ、シティプロモーション推進事業を展開することになった。平成 20 年に、シティセールス基本方針を策定したのを皮切りに、平成 21 年からシティプロモーション活動を開始、市のイメージキャラクター「がくとくん」も誕生した。平成 23 年にはがくとくんの妹、おんぷちゃんも誕生している。

特筆すべきは「首都圏パブリシティ」という取り組みである。「首都圏パブリシティ」は、首都圏メディアやウェブメディアに対し積極的に情報を提供することで露出・掲載されるよう働きかける活動である。主な活動内容は郡山のネタを集めたファクトシートや、メディアが欲している情報を集めたアプローチシートを作成し、メディアに提供していることだ。専門の PR 業者に委託し、情報を選択している。これにより多くのメディアに採り上げられるようになっている。テレビ東京系の「昼めし旅～あなたのご飯見せてください！」では 2 回合計で 39 分 45 秒の放映時間を獲得している。

次に、がくとくんによるシティプロモーションであるが、プロ野球の公式戦や東京でのテレビ放送などに露出しているほか、がくとくんバンドも結成、ライブ活動も行っている。全国の「ご当地キャラ選手権」では第 5 位に入賞し、東北地方では 1 位になっている。

これ以外にも、ウェルカムフラッグを市内 340 箇所に設置し、市外在住の方を対象に「こおりやまファンクラブ」を作り、結びつきを強めてもらう取り組み、各界で活躍されている郡山ゆかりの著名人に「フロンティア大使」を任命し、PR 活動も行っている。

4 所感

都市間競争が激化しているなか、シティプロモーションはこれから益々重要な取り組みになってくる。郡山の取り組みは非常に参考になるところが多い。特に首都圏パブリシティは非常に興味深い取り組みであると感じた。提供したネタのまま放送された事例もあり、メディアにとっても、自治体にとっても win-win の関係になっている。公平性の観点の問題がクリアできれば、立川市でも是非やりたい施策である。

● 2 日目 オープンデータの取り組みについて

1 日時 平成 27 年 10 月 23 日（金）

2 場所 会津若松市役所

3 内容

現在、国では、公共データをオープンにし、二次利用を促進することにより、透明性・信頼性の向上、経済活性化などを目指している。会津若松市では全国に先駆けて、多方面での情報の活用を推進し、地域の活性化に寄与するため、ウェブサイトで公開する公共データのオープン化を推進している。

会津若松市は福島県会津地方に位置する人口 12 万人の都市である。磐梯山や猪苗代湖など豊かな自然に囲まれた、自然景観に恵まれたまちである。

会津若松では平成 24 年 7 月 3 日からオープンデータの取り組みを開始、住基人口や公共施設 MAPなどを公開する。従来の情報公開では情報の二次利用は制限されることが多かったが、オープンデータは二次利用も構わないとする。以後も消防水利位置情報や AED の整備状況などを積極的に公開し、民間で様々な利用をされている。

そこで、会津若松市ではオープンデータのコンテストも開催している。内容はデータを活用してアプリをつくる「アプリ部門」、こういうデータがあったらいいという「アイデア部門」、自分でデータを作ってしまう「データ部門」など。大きな反響を呼んだ。

4 所感

職員の方から、最初から大風呂敷を広げるのではなく、小さく始め、負担を少なくし、活用を重視することをアドバイスいただいた。立川市では現在、検討中であるが、最初から大きなことをやるのではなく、住基人口などできることから初めていければ十分活用できると思料。

以上